

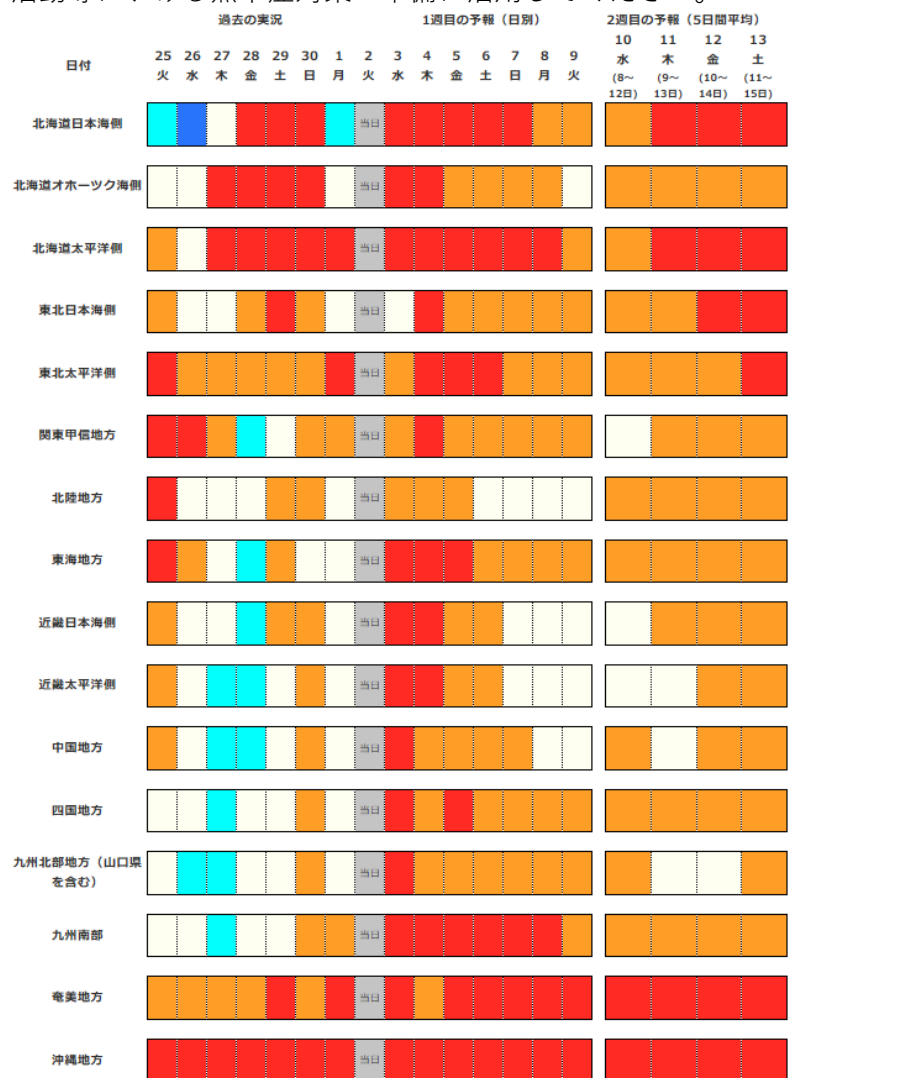
7月～8月は熱中症リスクの高い時期です。熱中症対策を万全に。

(環境省・気象庁)

7月から8月にかけて、1年間でもっとも気温が高い時期になります。加えて、野外で活動する機会が多くなり、熱中症の発生リスクが高くなることから、暑さへの対策が欠かせません。暑さ指数（WBGT）や熱中症警戒アラート等を目安として、気温の予報も活用しながら、適切な熱中症予防行動を早め早めにとっていただくようお願いします。

2週間気温予報 2024年7月2日11時（気象庁HPより）

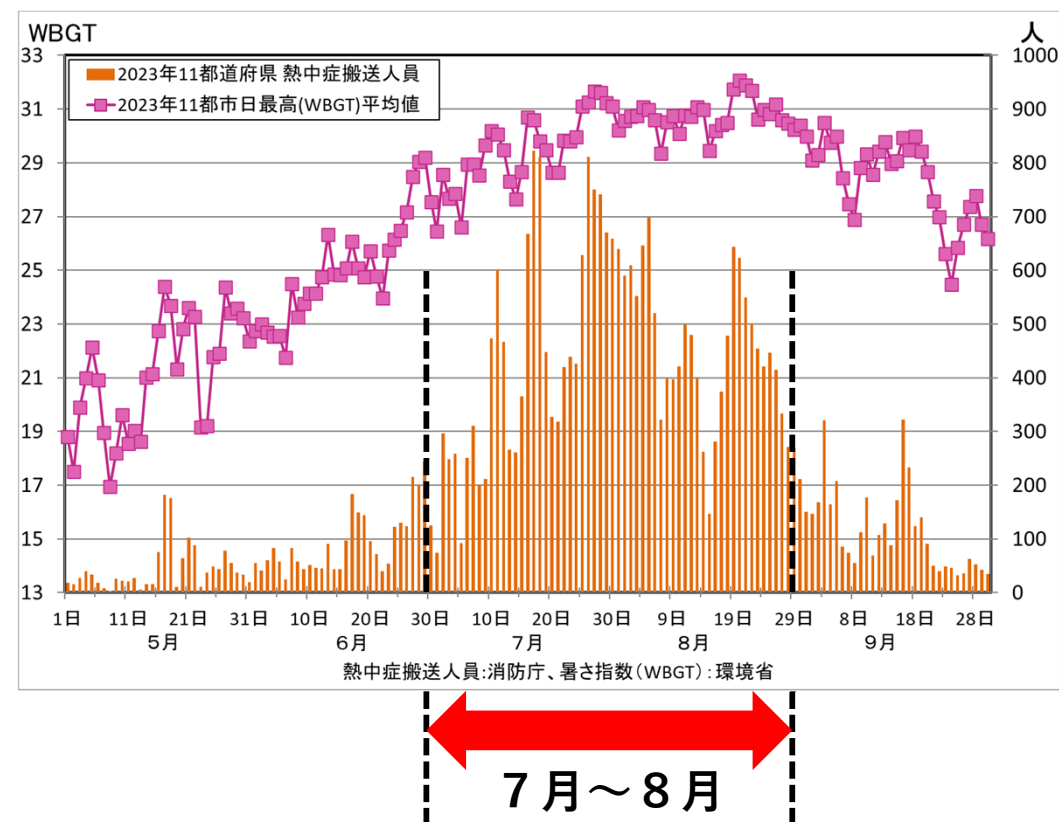
2週間気温予報について、暑さに負けない体作りや、イベントや屋外活動等における熱中症対策の準備に活用してください。



(平年との比較) かなり高い 高い 平年並 低い かなり低い

2023年における、全国11都市の平均日最高暑さ指数（WBGT）状況と救急搬送人員（11都道府県）の動向

下図は、2023年における、全国11都市（※）の日最高暑さ指数（WBGT）平均値と、各都市の属する11都道府県の熱中症救急搬送人員の総数の推移を示しています。



※全国11都市：

札幌市、仙台市、東京・文京区、新潟市、名古屋市、大阪市、広島市、高知市、福岡市、鹿児島市、那覇市

(参考) 暑さ指数 (WBGT) と注意すべき活動の目安等

(環境省・気象庁)

表 日常生活に関する指針

暑さ指数 (WBGT)	注意すべき 生活活動の目安	注意事項
危険 (31以上)	すべての生活活動で おこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が高い。 外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
厳重警戒 (28以上31未満)		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
警戒 (25以上28未満)	中等度以上の生活 活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に十分に休息を取り入れる。
注意 (25未満)	強い生活活動で おこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。

表 日本生気象学会「日常生活における熱中症予防指針Ver.4」(2022)より改編

※ 熱中症警戒アラートは、府県予報区等内のいずれかの暑さ指数情報提供地点における、日最高暑さ指数 (WBGT) が33に達すると予想される場合に発表します。